

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

物質・生命化学科 吉見 泰治

物質・生命化学科 3 年生の皆さんに選んでいただき感謝いたします。今年度から本格的に対面の授業および学生実験に戻りました。私自身が、これら対面授業の感覚やリズムを取り戻すのに少し苦労しましたが、何とか1年間無事に終わりそうです。昨年度のこのレポートでは、オンライン授業におけるテストの点数の極端化（点数の高い学生と低い学生の極端な結果）について述べましたが、対面授業に戻ることで、従来の成績分布に戻ったようです（点数が低い学生数が減り、中間層が厚くなりました）。やはり私達が教えている有機化学では、対面授業において化学構造式や化学反応式などを学生自身がノートに書いて覚えるというプロセスが非常に重要であることを確認できました。昭和時代の名残のように思えるでしょうが、漢字を覚えるように、化学構造式や化学反応式を自分の手で書くことで学生の理解を促すことができていると思います。ここ数年間、オンライン授業と対面授業との違いを確かめるための壮大な実験ができたと考え、来年度以降の授業に生かしていきたいと思っています。学生達が、化学構造式や化学反応式をたくさん書くことができる授業を目指します。

また、来年度から退職される先生の代わりに1年生に教える授業を受け持つ予定です。現在まで、ある程度基礎知識がある2-3年生の学生を対象にした授業しか受け持ったことがないため、私にとっては新たなチャレンジになります。今までの経験を生かして、1年生に対して有機化学の魅力を伝え、学生の学習意欲を促していきたいと思っています。